

第39回：鮮やかな出处進退と責任能力

昨年7月、友人が中国株ファンドを買った。2007年10月に一時30,000ポイントを超えたハンセン指数が22,000あたりまで下がっていたので買い時だと踏んだようだ。ところが、あにはからんや相場は更に下がり、数ヶ月もしないうちに基準価格が半値を割り込んでしまった。友人は身の不運を嘆き、酒を呑んで恨めしそうに紹介者(つまり筆者)に愚痴をこぼしていたのだが、僅か一年で基準価格は見事に回復した。最近彼はすこぶる機嫌がいい。彼曰く、中国経済の弾力性は凄い、脆さもあるが中国は育ち盛りの少年期の体質そのものだと。それにひきかえ、日本株は冴えない。前回のコラムにも書いたが、日清戦争時代の日中両国が逆転してしまったかの感がある。そのせいか魅力的な日本の政治家も最近は少ないようだ。

明治の御世の直前、年齢を2つごまかし18歳だと申告して戊辰戦争に参加した薩摩の少年がいた。官軍に従軍して全国を転戦し江戸に戻ってきたが、平和が訪れるとやることがない。薩摩で「花車」という四股名を持つ力持ちだったので相撲取りになろうと決心し、横綱陣幕久五郎の門を叩いたが、けんもほろろに断られてしまう。やむなく郷里の大先輩である西郷隆盛に頼み込み、勝海舟に弟子入りし海舟の推薦で海軍兵学寮に入学、帝国軍人の道を歩むことになった。ところがこの若者、手のつけられない乱暴者で、得意技といえばマスト登りと喧嘩のみ。おまけに学生の際で紅灯の巷に出入りし、品川遊郭の少女に惚れ込んだ拳句、深夜密かに同期生たちが漕ぐカッターを敵地に接岸させ、彼女を奪還する暴挙をしでかす。帝国海軍による前代未聞の「足抜け」作戦である。後に彼女と結婚し最期まで添い遂げるのだが、決して誉められた話ではないだろう。

「大器は晩成す」というが彼こそが後に日本海軍を唯一人で建設し、総理大臣まで登りつめる山本権兵衛である。彼が相撲の道に入れば明治は大横綱を生んだかもしれないが、日本は間違いなく日露戦争を失っていただろう。昭和天皇からの賜諱に「炯眼人を知りて克く任じ、豪胆事に当たりて善く断ず」とあるように、剛直な人物であり、西郷従道海軍大臣に仕えた副官時代は、人材育成と兵器の近代化を急ぎ、時代に取り残された100名近い海軍軍人を一気にリストラする。ある日突然クビになった軍人から見ると暴挙そのものである。ずいぶん恨みを買ったようだ。結局西郷・山本の薩摩コンビは、それまで薩摩閥で固められてきた「薩の海軍」を自らの手で葬り去る暴挙でもって海軍近代化の土台を築く。

海軍大臣になった権兵衛はロシアに対抗すべく六六艦隊の建設を急ぐが、予算が尽き果て最後の戦艦一隻を買う手付金がどうしても工面できず窮地に陥った。思いあぐねた彼は西郷内務大臣(当時)に相談し、2人の独断で文部省予算を借用して戦艦を買う。公金流用とは穏やかではないが、西郷は「もし議会在違憲を許してくれなければ、2人で二重橋に行って腹を切りましょう。2人が死んで主力艦ができればそれで本望です」と励ました。その暴挙で購入した戦艦が旗艦三笠である。世の中には自らの責任能力の何たるかを理解せず、二言目には「オレが責任をとる」と吠える馬鹿がいるが、そのような輩にはこの二人の爪の垢でも・・・と思うのである。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

その山本権兵衛を支え、日本海海戦を勝利に導いたのが土佐の島村速雄(当時少将)である。日清戦争では旗艦松島の参謀として活躍し、北洋水師を威海衛に殲滅させる功を挙げ、帝国海軍きっての作戦家として広く知られた存在であったが、東郷長官を支える連合艦隊参謀長に就任すると、実務は若い秋山真之少佐に任せる。そして剃刀のような切れ味の秋山が活躍できるよう、おおらかな性格の上司としてフォローに徹する。しかし自由放任ではなく、旅順港で勝ちを焦り追撃に出ようとする秋山を大声で叱りつけ、負傷者の救出を優先するよう命じたところに彼の人柄が窺える。連合艦隊の初動作戦はちくはぐで、旅順港閉塞作戦や駆逐艦隊攻撃の失敗、戦艦2隻の触雷沈没事故等の不祥事が重なると、島村は人心一新を上申し自ら参謀長を退き第二艦隊第二船隊司令官に転出する。しかし彼は退くに当たり、後任の参謀長に広島に加藤友三郎少将、駆逐艦隊指令に鈴木貫太郎中佐(終戦時の総理大臣)など正鵠を射た人事を行っている。転出後も彼は東郷長官をよくサポートし、日本海海戦に先立ち、バルチック艦隊の通過ルートが読めず、広い海のどこで待ち伏せするか加藤参謀長や秋山参謀たちが迷いに迷った際も、東郷長官に対馬で待つべしと進言し、その瞬間に東郷の腹は決まったという。

日本海海戦でバルチック艦隊がほぼ全滅したとき、ただ一隻脱出を試みた軽巡イヅムルードへの追撃に対して「武士の情けだ、見逃してやれ」と言った島村。戦争に感情は禁物であり、東郷平八郎や秋山真之は宋襄の仁を偽善とみなして徹底的に嫌ったが、たとえ戦略目的に反する行為でも人間として譲れないスジを曲げなかったのが島村や、露艦リューリックの乗員救助を優先した第二艦隊司令長官の上村彦之丞中将たちだったのである。島村は生涯自分の功績を語らず、日本海海戦の作戦も全ては秋山真之の発案だと人に語ったという。彼は、大正時代に入り軍令部長に就任するが、兵学校同期の加藤友三郎とは終生の親友で、加藤が海軍大臣や総理大臣に就任すると、よく海軍を取りまとめ海軍軍縮やシベリア撤兵に協力する。

東京の青山墓地には明治の指導者が多数眠っているが、ポーツマス講和に尽力した小村寿太郎の墓所の2つ左隣が島村元帥、2つ右隣が加藤元帥の墓所である。この三傑の墓前に立つと、日本が「坂の上」を目指すライジング・サンであったころの勢いがわかるような気がするのである。(了)

平成 21 年 12 月 15 日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075% (税込み) (約定代金が260,869円以下の場合、3,150円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物 株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20% (税込み) (約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物 株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3